

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から分かることは以下の通り。国語では、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることに苦手意識がある。算数では、はかりの目盛りを読むことや異分母である分数の加法に苦手意識がある。全体的には平均点も高いと言えるが、必要な情報を精査することや、単位換算等に課題が見られる。  
○学習に対して意欲的に取り組む児童が多いと言える。答えを導き出すプロセスを説明することはやや苦手である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○児童が「主体的に」「学び方を選びながら」自己解決するための時間を十分に確保し、自分一人であっても学習を進めるための道筋を見通すことができるようにする必要がある。  
○本校の研究主題にかかわっている問題解決型・探究型の授業を行うための更なる研究に徹する必要がある。合わせて東京都教育委員会及び板橋区教育委員会から指定を受けている「デジタルを活用したこれからの学び」についても研究を深めていくことが課題である。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○全学年の学級編成を基盤として、児童の新たな学習意欲を高め、交流を広げながら、興味・関心を高める協働授業や問題解決型・探究型の授業を構築していく。  
○児童の主体的な学びを促す「板橋区授業スタンダードS」に基づき、児童が、自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を更に自己選択、自己決定し、学びを自己調整しながら進めることができるように本校の研究内容を深めていく。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
「板橋区授業スタンダードS」の徹底した指導	読み解く力の育成	児童の実態に見合った指導の精選
○各教科等の授業において、めあてや学習のゴール等を明確にし、どのように目標とするゴールにたどり着くことができるか、考察や分析、情報収集や整理等を繰り返す学びを推進させる。	○INPUT→THINK→OUTPUTをすることができるようめあてを設定し、協働的に問題を解決する場面を設定する。	○「デジタルを活用したこれからの学び」についての研究を深めるために、自己調整型の学習に関するアンケートをデータ化し、実態の把握と見合った指導の精選に努める。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアにおける実践や指導計画を参考にしながら、学校の実態に合った指導計画を作成する。またiCSや学校支援地域本部と連携し、地域人材や資源を効果的に活用しながら郷土愛の育成を図る。	○総合的な学習の時間を中心として、iCSの方々の力を借りながら、志村地区だからこそできる地域連携を図り、カリキュラム・マネジメントを推進する。 ○長期休業前後の始まりや終わりに関しては授業時数を少なくするように教育課程を編成する。教員が質の高い授業を準備するための期間としたり、児童が無理なく生活リズムを整えて心身健康でいられたりする時間として活用する。	○全学年・学級で一人一台端末を効果的に活用することで、互いの意見を共有したり、共有するための資料作りをしたりすることができるようにする。前年度に引き続き、今年度も「デジタルを活用したこれからの学びの提案」に関する「自己調整型の学び」が行われるICTの活用法に視点をしぼり、研究を深める。